

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Ag fresh

2017. VOLUME.87

あぐ
れっしゅ

6

特集

おれたちの ポリシー ブック完成 ～当JA青年部の作成現場をリポート～



[みんなのよい食プロジェクト]とは、
これから日本人にとって「よい食」
とは何かを、日本の農業とJAグループ、
消費者のみなさんと一緒にになって
考え、行動していく運動です。



腕じまん

地域じまんのモノ語り



▲十和田市の魅力PR月を盛った児童たちと十和田ファミリーズ

修学旅行で魅力発信

～児童がPR隊結成～

十和田市立南小学校の6年生89人が5月15日、十和田産品PR隊を結成した。6月16日に修学旅行先の北海道のJR函館駅で、利用客に十和田産品を配り、十和田市の魅力を発信する。当JAからは県産米「まっしぐら」、ナガイモ、ニンニクなどを無償提供する。

同校で開いた結団式では、6年生代表の3人がPRに力を尽くすことを宣言。十和田市役所や協力企業の関係者は、児童に「すばらしい食と景観が楽しめることを宣伝してきてほしい」とエールを送った。

児童は、十和田産品のおいしさを知るために、市の食材を使ったバイキング給食も堪能。「まっしぐら」とゴボウのサラダ巻き、ナガイモとアスパラのガーリックソテー、春キャベツのコールスローなどを味わった。



▲PR商品を受け取る児童



▲十和田食材のバイキングを楽しむ児童たち

6年生の川口綾華さん(11)は「十和田に来てもらえるよう、おいしい食べ物を伝えてきたい」と意気込む。沼尾千恵美学務主任は「故郷に誇りをもち、積極的にアピールする表現力を高めて欲しい」と期待する。

次回外務予定日

7/12(水)～16(日)

表紙写真紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.64

けいしょうびと



三木事業所管内 坂本 一磨さん(31)

妻 由加里さん(35)

長女 莉愛ちゃん(4)

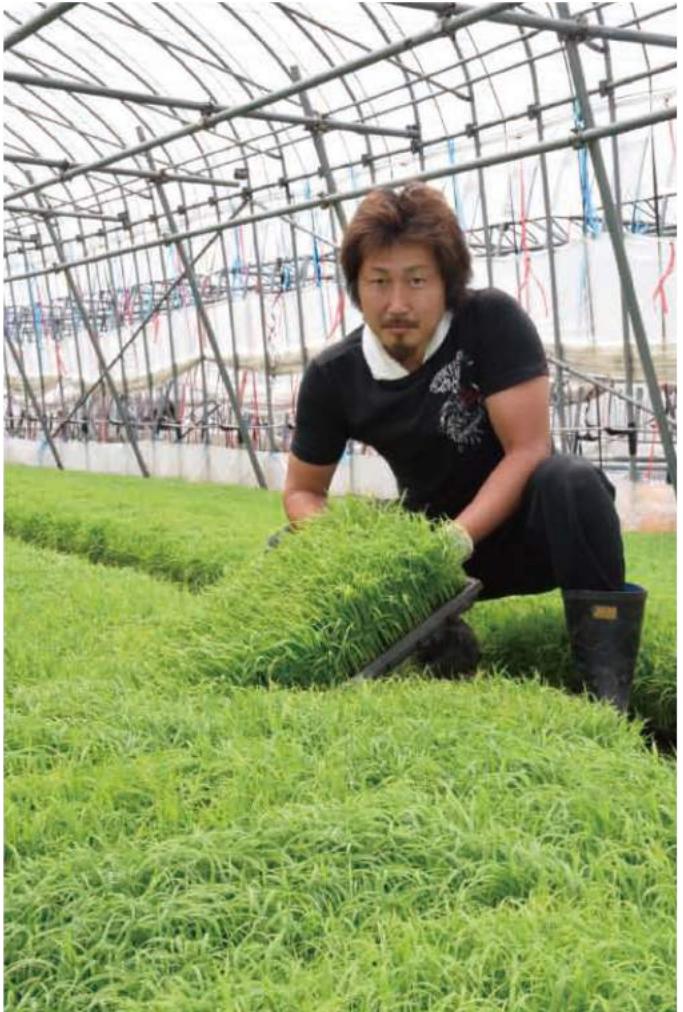
新規作付け、 規模拡大に挑む

田植えをしながらの代播き、苗の管理と、春の農繁期を迎える一磨さん。本年産米の作付面積は7.2haを予定。5月21日にスタートした田植えは5月いっぱい続き、主食用米として品種「まっしぐら」を植えた。家族の笑顔をエネルギー源に、10ha収量は12俵をめざす。

家族経営の支えになる

代々続く専業農家で家族経営。現在は水稻栽培を農業経営の柱にしている。一磨さんは十数年前、祖父の死をきっかけに、少しでも家族の支えになろうと会社を辞め、親元就農した。「農業は時間にしばられず好きなように働ける仕事だと思う。だから、やった分・やらなかった分が、収穫で目に見えるから面白い」と話す。

50代後半の両親は、まだ現役世代。そのため、現在は父親の指導のもとでの作業だが、任せられる仕事は少しづつ増えている。「自分なりのやり方も取り入れていきたい。機械操作の技術もあげていかないと」と話し、JAのナガイモ担い手育成塾にも参加している。



表紙撮影日:5月28日

仲間が刺激に

集落には同じ世代の農業後継者が多く、刺激を受けている。JA青年部の活動、地元消防団の寄合など、顔なじみが揃うと会話は、もっぱら農業のこと。新しい栽培技術、最新の農業機械、収穫や植え付け時期のことなど、お酒も加わると話は尽きない。みんな「良きアドバイザー」「良き仲間」「良きライバル」である。

一磨さんは、ナガイモ栽培に力を入れていきたいと考えた。「大きなナガイモを掘り上げた時の手の感触、感動がたまらないから。ナガイモの作付面積拡大、ゴボウの新規作付け」を今後の目標にしている。

プロフィール=さかもと かずま 十和田市早坂地区
組合員=一男さん

家族構成/祖母、両親、妻、子1人、弟
農業経営/水稻7.2ha、ナガイモ1.5ha、葉タバコ

総務部

第7回通常総代会開催

開催日時:平成29年6月24日(土)

開会時間:午前10:00／受付開始:午前9時

開催場所:当JA本店 3階大会議室

※総代会当日と資料説明会には、「通常総代会資料」、別冊の「第三次中期経営計画書」「第三次地域農業振興計画書」をご持参願います。

◆総代会開催に伴う資料説明会◆

開催日時	開催地区	開催場所
開催年月日	開催時間	
6月14日(水)	午前9時30分	七戸支店
	午後1時30分	三木事業所 本店
6月15日(木)	午前9時30分	上北支店
	午後1時30分	十和田湖支店
6月16日(金)	午前9時30分	下田支店
	午後1時30分	大深内支店
	午前9時30分	ももいし支店 一川町コミュニティホール
	午後1時30分	藤坂支店
		藤坂支店

※あぐれっしゅ5月号で、ももいし支店の資料説明会開催場所に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

金融部

ローン相談会(本支店のご案内)

教育資金、新築やリフォーム、自動車のご購入など、組合員以外の方でもお気軽にご相談ください。

毎月第3日曜日
9:00~15:00

相談会場	地区
本店	十和田市内全域
下田支店	おいらせ町全域
むつ支店	むつ・横浜町

6月 18日 7月 16日

※他の地区は、各支店が相談会場です。

農業機械・農業に関わる設備資金等の相談も承ります。

各種ローンの金利引下げキャンペーン実施中!



各種ローンがネットで仮申込みできます。

検索方法は「JAネットローン」で検索!!

もくじ
contents

あぐれっしゅ
vol.87

6

特集 4.5.6p

おれたちのポリシーブック完成
～当JA青年部の作成現場をリポート～

総務部より

・通常総代会開催日 6/24
総代会開催に伴う資料説明会日程

金融部より

・ローン相談会 6/18、7/16 ... 2p

継承人 表紙写真紹介 3p
・坂本 一磨さん(三木事業所管内)

NEWS&TOPIC 地域の話題 7p

・春作業の農家激励 パレット対応試験
・ダイコン初出荷式 ほか

あぐれっしゅ情報① 10p
・平成30年度・新採用職員募集
私たちと一緒に働きませんか?

笑顔さらめいて 12p
・村山 蓮くん(1)・むつ支店管内
・子会社通信

頭の体操 パズル? 13p

information 14p

・金融部・夏の貯めトクキャンペーン
・共済部・ども共済見積りキャンペーン実施中!
・米穀畜産部・子牛市場
・理事会だより ほか

役員室のつぶやき



地域じまんのモノ語り 16p
・修学旅行で魅力発信
～児童がPR隊結成～

JJAの概況 平成29年5月末日現在

正組合員数/6,808戸

准組合員数/5,144戸

役員数/25人

職員数(准職・嘱託含)/292人

貯金高/764億1,764万円

貸出高/156億3,296万円

ポリシーブックとは、営農や地域で感じている疑問や課題をグループでの話し合いを通して、互いに打ちあけ、解決する方法を探る。そして、解決策をまとめて文書化したのが、JA青年組織の「行動目標・政策提言集」である。

解決策は、まずは自分たちがJAとともに、なにをどう取り組むのかが大切となる。それでも力が及ばない部分は行政などに「政策提言」として要請をする。取り組んだあとに成果の確認と反省をし、内容を見直していく。これがポリシーブック作成と活用のおおまかな流れになる。

取り組みの流れ (作成の手順)

特集

おれたちの ポリシーブック 完成

～当JA青年部の作成現場をリポート～



全国のJA青年組織で取り組んでいるポリシーブック。

J A十和田おいらせ青年部は、全国農協青年組織協議会のモデル事業として、昨年7月から制作に着手し今年3月、県内初となるポリシーブックを完成させた。今回の特集では「ポリシーブックって何だ?」から始まった作成の現場を紹介したい。



そもそもポリシーブックって何だ? 「やる意味はあるの?」「どうせやらなければならぬことだから今やろう!」からのスタートだった。

「そもそもポリシーブックって何だ? 「やる意味はあるの?」「どうせやらなければならぬことだから今やろう!」からのスタートだった。

① 営農の悩み、切実な課題が続々

作成会合を全3回で計画し、1回目は7月29日、6支部32人の部員が集まった。JA全青協の理事、県青協の委員会らがポリシーブックの意義を説明。グループディスカッションが始まると、最初は部員同士けん制であったが、誰かが口火を切ると、思い思いの意見が飛び交った。

一例を挙げると「農繁期の人手不足、手伝う人

の高齢化、通年雇用はできない」広域合併で指導員の巡回が減った「機械の知識や技術を身に付けていき」など、普段思っている営農の悩み、切実な課題が出された。

この日は思いを互いに出し合い、項目ごとに整理して、班ごとに発表するところ終了。これまで議論する機会がなかつただけに、懇親会のなかでも夜遅くまで語り合つた。

③ 意識の変化へ

3回目(最終)の会合は11月7日に開催。2度の作成会合を経て、早くも取り組みの成果が現れた。その一つが、JA役員との意見交換会の実現。青年部員の声を、JAの事業計画の参考にしたいという話だ。「将来的にはポリシーブックの支部版も作りたい」「3年後、県の青年大会でポリシー ブックのことを発表しよう!」と盟友たちは意欲的。平館龍徳新部長は「自分たちの意見を実行に移す方法を知ることができた。農業を生業とする自らたちが前進するため、より良い地域社会を作るための一歩。若い手としての青年部組織を作ること」「行政に要望すること」を明確にしていく。

ある班の発表では「営農技術の向上」という課題解決のために若手農業者向け講習会を増やす。①回出された課題の「解決策」をグループで話し合つた。前回の会合とは違つて序盤から考え込む場面が多くなり、部員からは「アイディアを出すのに苦労する」「整理が難しい」という声も挙がったが、2時間弱で各班2、3ずつのテーマの解決策をまとめ上げた。

② 解決策のアイディアを具体化

2回目の会合は一ヵ月後の8月26日に開催。前回出された課題の「解決策」をグループで話し合つた。前回の会合とは違つて序盤から考え込む場面が多くなり、部員からは「アイディアを出すのに苦労する」「整理が難しい」という声も挙がったが、2時間弱で各班2、3ずつのテーマの解決策をまとめ上げた。



■ 春作業の農家激励 ~市長、組合長が農家を訪問~

小山田久十和田市長と竹ヶ原幸光JA組合長が15日、十和田市内で米づくりに励む農家と、ナガイモの植え付け準備をする農家を訪問し激励した。

十和田市深持の福沢秀雄さん(62)は、今年13歳に代掻き作業が不要の乾田直播を行う予定で、「大幅な作業省力が期待できる。技術を検証して、地域に広げたい」と話した。

同市米田の(株)グリーンソウルのナガイモ畑では、小山田市長が県内でまだ導入の少ないGPS機能を設置した大型トラクターを運転する場面もあった。同社はナガイモ、ゴボウ、ダイコンなどの総作付面積が80ha。同社代表の米田拓実(43)さんは「昨年の台風被害は大きかったが、国・市などの助成支援で本年産の作付けができた。秋には質の高いものを収穫したい」と意気込む。

竹ヶ原組合長は「農家は常に新たなことに挑戦している。JAとして支援・サポートしていきたい」と話した。



▲ナガイモの植え付け準備中の農家を激励する小山田市長(写真左)と竹ヶ原組合長(写真右)



▲乾田直播の米づくりに励む農家の圃場で

■ 紫黒米を植えたよ! ~東北町立上北小学校5年生~

東北町立上北小学校の5年生66人が5月24日、町内にある学校田に紫黒米の苗を植えた。秋には稲刈りを体験、餅つき大会も開く予定。

同町上野の米農家で、黒米研究会の蛭名勲会長は長年、同校に学校田10haと紫黒米の苗を無償提供している。蛭名会長は「紫黒米と普段食べている白米との違い、町の特産品であることも知って欲しい」と話した。



▲田植えを楽しむ児童

■ 青年部員と楽しく田植え ~七戸町内2小学校5年生~



青年部七戸支部は5月23日、七戸町内の水田で城南小学校と七戸小学校の5年生62人に田植え指導をした。今後は稲刈り、餅つきも一緒に行う。

この日は、同支部の青年部員5人が参加。素足で水田に入った児童は、植え方を教わりながら面積8haに品種「あねこもち」の苗を3株ずつ手植えし、乗用型田植え機の乗車も体験した。

同支部の氣田修副部長(34)は「どのようにお米が出来るのかを知って、農業を身近に感じて欲しい」と話す。

特集 おれたちの ポリシーブック



J A 十和田おいらせ青年部(271人)
三本木支部(38人) 上北支部(11人)
大深内支部(86人) 七戸支部(26人)
(大深内分会・深持分会) 十和田湖支部(24人)
藤坂支部(76人) 横浜町支部(10人)
(藤坂分会・四和分会)

青年部員募集中!
**“おれたち”と一緒に前へ
まずは一歩を踏みだそう**
ともに学び、活動する仲間づくりから始め
てみませんか。青年部の活動、加入のことな
ど、質問・お問い合わせ先は
指導やさい部指導課 青年部事務局
(Tel.0176-23-0339)か、各支店・事業所
の青年部事務局まで。

- ◆ 平成29年度短期計画では、「男女の出会い」「部門員減少・新規部員獲得」を重点実施項目に掲げた。青年部員が参加したくなるイベントの企画。青年部活動が周知されるよう、青年部内に広報担当を設置するなど。
- ◆ 平成31年度までの中期計画の重点実施事項は三つ。一つは、スマートフォンを活用した部員間の情報の共有化。指導員にも参加してもらい技術面の相談ができる環境づくりをめざす。
- ◆ 平成33年度までの長期計画の重点実施事項は五つ。このうち農産物の高附加值販売では、部員が販促活動に積極的に参加することを掲げた。

- ◎ 一人一人の意見が違つたり、一方で賛同をもらえたりと、人によって見える角度が違うと感じた。
- ◎ 活発な意見交換ができた良かった。これからも続けていきたい。
- ◎ グループワークは、話が活発になる良い方法。部員同士、深く議論ができた。
- ◎ 地域農業の現状、未来を語ることができた。
- ◎ 普段、みんなが思っていることを言える良い機会と感じた。



完成したポリシーブック内容の一部

ポリシーブック研修会を終えて…

参加部員へのアンケート

◆ 平成29年度短期計画では、「男女の出会い」「部

員減少・新規部員獲得」を重点実施項目に掲げた。青年部員が参加したくなるイベントの企

業。青年部活動が周知されるよう、青年部内に

広報担当を設置するなど。

◆ 平成31年度までの中期計画の重点実施事項は三つ。一つは、スマートフォンを活用した部員間の情報の共有化。指導員にも参加してもらい技術面の相談ができる環境づくりをめざす。

◆ 平成33年度までの長期計画の重点実施事項は五つ。このうち農産物の高附加值販売では、部員が販促活動に積極的に参加することを掲げた。

◆ 平成31年度までの中期計画の重点実施事項は三つ。一つは、スマートフォンを活用した部員間の情報の共有化。指導員にも参加してもらい技術面の相談ができる環境づくりをめざす。

◆ 平成33年度までの長期計画の重点実施事項は五つ。このうち農産物の高附加值